

校内研修計画

1 研究主題

「学び合い、深く考え、表現できる児童の育成」

～主体的・対話的な言語活動を目指した授業改善～

2 主題設定の理由

本校の児童は明るく元気に友だちと仲良く活動し、落ち着いて学校生活を送ることができている。また、与えられた課題に対しては真面目に取り組むこともできる。しかし、自分から積極的に友達と関わったり自分の考えを表現したり、行動したりすることについては、まだまだ弱さを感じる。学習面、生活面共に自主性・積極性という点での課題がある。

昨年度は、研究テーマを「学び合い、深く考え、表現できる児童の育成」～主体的・対話的に学習を深め、言語活動を充実させる授業改善～とし、算数科の授業改善を中心に年間計画に沿って研究を行ってきた。研究授業後の研究協議では、「主体的・対話的な学び」「思考力・表現力の育成」「学力の定着」の3つの視点に基づき、能力ベースの授業への転換がなされていたかについて確認を行った。また、学習指導要領の中で求められる資質・能力ベースの授業づくりについて講師を招聘し、全教職員共通理解のもと授業改善を図ってきた。課題把握で既習事項を生かし見通しを持たせることや、有用感が持てるような適応問題の工夫等、主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善を行い、学習リーダーが中心となって学習を進めるスタイルも定着しつつある。

高知県学力学習定着状況調査では、4年生が2教科県平均 - 4.8P、5年生が3教科県平均+11.0Pという結果であった。また、CRT学力調査では、全国平均+2.4Pで、前年度よりも低い結果となった。その要因として、少人数の学年や個人の定着度に差があり、平均点にばらつきが見られた点が挙げられる。個の目標に近づけるようしっかりと基礎学力をつけていくことが課題となっている

さらに、既習の学習を取り入れながら思考することができる児童や自分の考えを図形やテープ図、線分図などを用いて考えたり、数学的に表現したりすることができる児童が少しずつ増えており、取り組みの成果が見えてきた部分があるものの、目的に応じた方法で表現する力や相手に分かりやすく説明する力が不十分であること、また主体的に学ぶという点でも課題が見られた。言語活動を充実させ、算数用語を用いた確に説明する力や自分で課題を見つけ、学習していく主体性を育てていく必要がある。

そこで本年度も、授業改善を中心に据え、これまでの取り組みを継続しながら、児童が主体的に学習を深めることができるようになるよう研究を深め、指導技術の向上を図りたい。特に、「一人学びでの思考が深まるとも学び」「まとめと振り返りの充実」を重点課題として取り組んでいく。授業研究では、上記2点について視点を絞りながら研究協議を行い、児童の主体的な学びと学力向上に繋げていきたい。また、児童の実態把握から個の課題へのアプローチを行い、個の目標に近づけるようしっかりと基礎学力をつけていくよう取り組みを充実させていきたい。